

## 式 辞

吹く風の冷たさも日増しにやわらぎ、校庭の木々の芽が日ごとに膨らんで、春の訪れを覚える季節となりました。

本日ここに、令和二年度愛媛県立八幡浜高等学校の卒業証書授与式を開催しましたところ、ご多用の中、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、かくも盛大に挙行できますことは、教職員並びに在校生一同の大きな喜びであります。衷心よりお礼を申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与された普通科百五十四名、商業科三十三名、合計百八十七名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんの門出に、心からお祝いを申し上げます。

今、皆さんは、これまで過ごしてきた三年間の高校生活を振り返り、感慨無量の心境であろうと思います。日々の勉強や部活動に根気強く、まじめに取り組む姿や、体育祭・文化祭などの学校行事、生徒会活動、家庭クラブ活動さらには地域の方々との交流活動やボランティア活動など、様々な活動に、コロナ禍で制限がありながらも積極的に取り組む姿は、高校生活を充実したものにしたいという思いが伝わってくるものでありました。困難と思われることにも立ち向かう勇気や、最後まであきらめず取り組む辛抱強さ、協力・助け合いなど、多くのことを体験することができたことと思います。皆さんの活躍があったからこそ、学校創立百二十周年の記念すべき年を迎えたこの八幡浜高校が活力と輝きに満ちています。また皆さんの中にも輝かしい青春の一ページを刻みこんだことでしょう。そこで得られた充実感や達成感は、皆さんが今後の社会で生きていくための自信となるはずです。

卒業は、新しい人生の始まりでもあります。皆さんの門出に当たり、改めて本校の努力目標である「随所に主と作す」という言葉を贈ります。この言葉は、臨済宗の開祖である臨済禅師の教えの中の一説です。家庭や職場、学校など自分の置かれている場所で精一杯努力すれば、誰でも成果を上げることができ、社会を明るく照らすことができる存在となれるという意味です。自分に与えられた役割や仕事に誠実に、一生懸命取り組むことによって、自分自身が生きがいを感じられるだけでなく、社会にも貢献することができるのです。

現代社会はグローバル化や情報化が進み、非連続的ともいえるような急激な変化が起きています。国内では出生率の低下に歯止めがかからず、少子・高齢化が続いています。また、ここ数年大規模な自然災害が国内の至る所で発生し、生活の基盤を失う人が多数出ています。更に、新型コロナウイルス感染症の世界規模での広がりが、追い打ちをかけるように私達の生活様式を一変させてしまいました。

しかし、このような困難な時代だからこそ、それに翻弄されることなく「勉学・礼儀・健康・融和・奉仕」の精神で努力した高校時代を思い出し、辛抱強く、自分のなすべきことに誇りを持って励んでください。そしてこの地域のみならず日本を支え、さらには世界に羽ばたく有為な人材となるようお願いしたいと思います。他人に誇れる仕事をするのが、人としての幸せであり皆さんの未来を明るくしてくれると確信しています。

最後になりましたが、保護者の皆様一言ごあいさつ申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませう。晴れて卒業の日を迎えられた今日のお喜びはいかばかりかと拝察いたします。また、この三年間、多くの行事で成果を収めることができましたのも、保護者の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。今後も八幡浜高校の応援団として、変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

卒業生の皆さん、嬉しいことがあったとき、悲しいことがあったとき、いつでも八高を訪ねてきてください。個々は皆さんの母校であり、皆さんのことを心から大切に思い、幸せを願う後輩や教職員がいます。

名残は尽きませんが、巣立ち行く百八十七名の卒業生の皆さんの、輝かしい前途に幸多かれと祈り、式辞といたします。

令和三年三月一日

愛媛県立八幡浜高等学校長

菊地 英明